

災害時の効果的な被災者支援を目指し

災害ボランティアセンター 設置・運用訓練を実施

鹿児島県
総合
防災訓練

薩摩半島西方沖地震を震源とする強い地震と大雨・洪水等による災害を想定した、鹿児島県総合防災訓練が、5月17日、枕崎市総合グラウンドを中心に開催されました。鹿児島県社会福祉協議会は、枕崎市をはじめ近隣の社会福祉協議会と協力して、災害時のボランティア活動を迅速かつ効果的に展開し、被災者を支援できるよう「災害ボランティアセンター設置・運用訓練」を実施しました。

民生委員、自治会からも多数参加

今回の「災害ボランティアセンター設置・運用訓練」には、社会福祉協議会職員をはじめ民生委員児童委員、自治会、ボランティア等92名が参加しました。

開始式では、枕崎市社会福祉協議会の田野尻秀明会長のあいさつに続き、本会ボランティアセンター榎並明美主幹が、今回の訓練は、複合的な災害に対応した設置・運用訓練で、被災者支援に迅速に対応できるように緊張感を持って、訓練に参加するように指導しました。



ボランティアの受付

仮想避難所での支援訓練も実施

参加者は、「仮想ボランティア」、「仮想避難所生活者」、「災害ボランティアセンタースタッフ」に分かれ訓練を行いました。

災害ボランティアセンターでは、受付に訪れた仮想ボランティアに対し、ボランティア登録、ボランティア活動保険の加入、マッチング（需給調整）、送り出しまでの一連の手続き訓練を行いました。

また、仮想避難所生活者に対するニーズの聞き取り調査など、それぞれの役柄になりきり、どうしたら効率よく支援活動ができるか、工夫を凝らしながら行いました。



被災者ニーズの聞き取り調査



支援ボランティアへの説明

災害ボランティアセンター運用図

ボランティア

受付

ボランティア登録カード記入

保険受付

ボランティア活動保険加入

総合受付

ボランティア登録カードのチェック
ボランティアの待機指示

被災者

ニーズ受付

ニーズの聞き取り

マッチング

ボランティアの派遣先を決定し被災先へ送り出す

災害に備えた 訓練が大事！

本会ボランティアセンター淵脇隆一所長が「全国各地で大規模な災害が発生し、本県でも豪雨等の災害が恒常化しており、大きな被害がでています。災害時に備え迅速に効果的な対応ができる訓練が必要で、梅雨を控え、いつ起こるか分からない災害に備えることができました。」と閉会のあいさつを述べ終了しました。